

8部

通信制大学院コーナー

【本コーナー以外のご参照ページ】

＊新型コロナウイルス感染防止に関するお知らせ p. 4～6

＊仙台駅東口キャンパス他のご案内 p. 44

＊卒業式（学位記・卒業証書授与式）について p. 52

1 // 今年度修了希望の方へ

●修士論文・口述試問

- (1) 修士論文の提出は、1 / 20午後4時で締め切りました。
- (2) 口述試問の日程は、郵便で1 / 26頃発送予定です。口述試問は、修士論文の最終試験となり日時等の変更はできません。
- (3) 3 / 17修了者の発表は3 / 3発送予定。

※電話での問い合わせには一切応じられません。

※学位記・卒業証書授与式のご案内を同封します。

※3 / 31の修了者は、出席できません。

【学位記・卒業証書授与式 3月17日(木)】

10：00～10：30 入場

11：00～11：30 学位記・卒業証書授与式(国見キャンパス「福聚殿」)

(通信教育部・通学課程と合同→本冊子 p. 52参照)

※新型コロナウイルスの感染状況によっては、急遽中止になる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

●修士論文要旨集について

- (1) Web公開用「修士論文要旨」提出締切日：2 / 3
- (2) 提出先メールアドレス：mr@tfu-mail.tfu.ac.jp
- (3) 執筆要領は、『通信制大学院ガイドブック2021』 p. 82参照

●レポート

- (1) 課題レポート提出は、2021年12月2日で終了。
- (2) 在宅試験レポート最終提出締切日：1/26（結果通知：2/25予定）

●各種証明書

- (1) 修了証明書および単位修得成績証明書（今年度の単位修得科目を含む）は、修了日（3/17 or 3/31）以降の発行。
- (2) 申込方法は、修了確定の通知後『通信制大学院ガイドブック』巻末様式「各種証明書申込書」に必要事項を記入し、発行手数料（定額小為替証書）と返信封筒（長形3号・宛名明記・切手貼付）を同封のうえ郵送でお申込みください。
※切手料金：1～2通は84円、3～4通は94円をご用意ください。

2 / 来年度(2022年度)修了希望の方へ

●修士論文指導教員のお知らせ

- (1) 今年度「学位請求論文研究計画書」を提出した方に指導教員を書面で1/20発送。
※未着の場合は、事務室まで急ぎお知らせください。
- (2) 通知に記載の留意事項もご一読ください。疑問点は事務室に問い合わせ、早めに解消してください。

●修士論文の指導

基本的な論文の書き方や方法論について理解が十分でない方は指導を受ける前にしっかりと身につけてください（『通信制大学院ガイドブック2021』 p. 65参照）

- (1) 指導方法は、通信指導と面接指導の2通りあります。
※詳細は『通信制大学院ガイドブック2021』 p. 72～73参照。
- (2) 初回の指導は通信指導をお勧めします。面接指導は事前準備に左右されるため通信指導を面接指導準備と考えてください。
- (3) 面接指導の方法は、リモート1～2回程度と来校1～2回程度の合計3回以上受けることが必要。
※リモートと来校の回数は感染症の流行状況等により担当教員と調整。
※頻繁なリモート使用はお控えください。
- (4) 初回の指導では、同項(5)で生じた疑問点などを含めて通信指導を受けることをお勧めします。
- (5) 論文の構想を立てるにあたって、研究の目的や枠組みなどを明確にするために、可能な限り多くの先行研究や関連する文献などを読み進めるとよいでしょう。論文の構想はとても大切ですので十分に準備してください。論文を完成できるか否かは、構想によって決まるといっても過言ではありません。

●修士論文作成

- (1) 修士論文作成許可（3月末通知予定）後は、構想レジュメ・第1回中間レジュメ・第2回中間レジュメの提出が課せられています。
※『通信制大学院ガイドブック2021』 p. 68～71をお読みください。
- (2) 最初に提出するレジュメは、毎年5月を締め切りとする「構想レジュメ」※来年度の「構想レジュメ」提出締切日：5/17

- (3) 各レジюмеは、提出前に指導教員から指導を受けることが望ましいです。※提出者分のレジюмеを冊子にし、提出された方全員と特別研究（修士論文）科目担当教員へ配布します。ご自身の研究を発表する場とお考えください。
- (4) 構想レジюмеについては来年度変更がありませんので、現在お手元にある『通信制大学院ガイドブック2021』 p. 69[構想レジюме]、 p. 70[レジюме提出方法] [レジюме執筆要領] を参考にし、必要な内容について把握し計画的に進めてください。

●授業科目の単位修得

- (1) 今年度の課題レポートの提出は1/7で終了。締切後提出された課題レポートの科目は来年度以降の修得となります（再提出レポートも同様）。
※レポートは引き続き受け付けますので、少しでも多く提出してください。
- (2) **第4回在宅試験レポート提出締切日：2/24**（結果通知：3/31予定）（締切に間に合わなかった場合は、来年度の第1回在宅レポート試験に含まれます。）
- (3) 今年度の「履修状況通知票」送付は、2022年3月末。
- (4) 来年度の修士論文作成許可通知は、2022年3月末発送予定。
※作成許可については、『通信制大学院ガイドブック2021』 p. 68をお読みください。

3

修士2年次への進級手続き (在籍継続手続き)

●進級手続きの流れ

- (1) 来年度学費振込依頼書の送付：3 / 3 予定（納入期限：4 / 2）
 - ・来年度学費は36万円（授業料30万円・施設設備費5万円・厚生費1万円）。
 - ・郵便局より納入してください。金額30万円以上の振込はコンビニ納入取扱不可となります。
- (2) 補助教材の送付
 - ・学費納入確認後、4 / 1 より『科目別ガイドブック2022』『履修希望科目登録用紙』『宅配便宛名用紙』など副教材を送付。
- (3) 履修登録（提出期限：原則4 / 13必着）
 - ・期限までに「履修希望科目登録用紙」「宅配便宛名用紙」を提出。
 - ・今年度の履修登録科目は来年度も有効です。あらためて履修登録する必要はありません（新たに学びたい科目のみを登録してください）。
 - ・来年度は履修登録をせず、これまでの履修登録科目のみを継続学習することも可能です。新たに履修登録しない意思を明記し履修登録用紙を返送してください。
- (4) 教科書の送付
 - ・履修科目の教科書は4月下旬から発送開始。

●新年度の履修登録について

- (1) 修了要件は、入学年度の『通信制大学院ガイドブック』記載のとおり所定の授業科目について各専攻の条件を満たしつつ30単位以上修得、修士論文を提出し合格することが必要。

- (2) 授業料の枠内で修了までに履修できる単位数は40単位。41単位以上履修する場合は、超過単位履修費（1単位あたり2,500円）が必要。
- (3) 履修登録している単位未修得科目は、来年度学費を納入すれば継続して履修できます。今年度の教科書・レポート課題は来年度も有効。
※ただし、今年度の課題が来年度変更された場合は、変更後1年間のみ今年度の課題でのレポート提出を認めます。
- (4) 2021年度の「履修状況通知票」は3月末発送予定です。

●学籍継続者について

在籍が3年以上となる方の手続きについては、2年次への進級と同様です。

●休学希望者について

来年度休学希望の方は『通信制大学院ガイドブック2021』巻末の様式5「休学許可願」を3/16までに提出してください。休学承認の通知後、休学費振込依頼書を送付します。休学費18万円の納入が必要となります。

※3/3送付予定の来年度学費は納入しないでください。

※3/18以降に「休学許可願」到着の場合、承認通知日が4月以降になります。

※休学は1年単位（4/1～3/31）となります。復学は2～3月に手続きし2023/4/1からとなります。

※休学中は、レポート提出や在宅レポート試験提出、スクーリング受講はできません。

スクーリング・アンケートより(3)

アンケートより、スクーリング講義の感想を抜粋しました。

●精神保健学 近田 真美子

- ・自分の視点、価値観、自分自身をみつめなおし考えることが、人に接する時にいかに大事かを改めて感じた。

●精神保健福祉援助技術総論Ⅰ 狩野 俊介

- ・ソーシャルワーカーの土台になる価値について理解ができたのでありがたかったです。いくら知識や技術を得てもその土台となる価値や倫理などがなければソーシャルワークとして成立しないことなど。
- ・バイスティックの7原則について、その意味だけではなく実際の活用の仕方がよく理解できた（関わりの中で気づきや理解をフィードバック・循環させていく、ニーズの表出に変化がでてくる、なぜ関係構築の過程として大切であるのか）。日常の関わり、担当者会議等あらゆる機会を意識して取り組みたいと考えました。Y問題についても、その問題から受け取れることがよく理解できました。以上はいずれも何度も他の講義で聴いてきたことですが、今回の先生のお話を聴き新たに理解が進み、感激しました。

●老年心理学A・B 吉川 悠貴

- ・両親のことで、物忘れと認知症の違いをどのように判断したら良いのが悩んでおりました。記憶には様々な側面があり、加齢の影響を受けやすいものと、受けにくいものがあるということを学問的に理解できました。高齢者への対応に際しとても大変参考になりました。

●心理学的支援法Ⅰ 重宗 祥子

- ・先生の言葉にハッとさせられることが度々ありました（例えば、人と関わるうえでの基礎として自身の欠点やネガティブなところ、認めたくない感情にも素直であること、相手の役に立っているという意識が災いすることもある、人間はじわじわ変化するもので急に変化することは逆に危険、相手に100の責任を押しつけない、社会的立場にある人は対等でなくてはならない等々）。何かを身につけるといのは時間がかかることであること、自分自身と向き合い自分を理解しようとするのが大切であるのではと思いました。講義をとおして、学びとともに自分が心理学的支援を受けたように感じました。